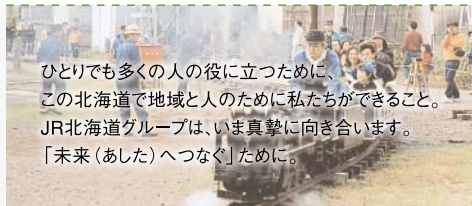


# あした 未来へつなぐ

【安全への取り組み】



ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



現在はシステム化が進み自動化された運転取扱業務もトラブル発生時は、人の手によって処理される。その技術を身につけるための訓練も「駅輸送業務センター」の業務のひとつ

## 安全・安定輸送の確保に向けて 「駅輸送業務センター」を全道十一カ所に開設 運転取扱業務の知識と技術を継承する

コンピュータの発達により、私たちが取り巻く社会は飛躍的な進歩を遂げました。鉄道の分野も例外ではありません。以前は人の手で行われていた信号や分岐器の操作など、運転取扱業務と呼ばれる作業の多くが自動化され、日常の運転

取扱業務に従事する駅社員は数少なくなりました。ただ、何らかのトラブルが発生し、列車の運行に支障が出た場合には、運転取扱業務のノウハウが必要になってきます。

JR北海道では、平成十八年四月に運転取扱業務経験者を中心とした、異常時運

転扱い及び技術継承を行う「駅輸送業務センター」を岩見沢地区に開設しました。

その後、四年間の試行拡大期間を経て、内容の充実を図り今年四月、正式に札幌、岩見沢、千歳、室蘭、帯広、釧路、旭川、北見、函館、長万部、木古内に開設。現在、全十一カ所のセンターが稼働し

ています。



第3回合同(駅・電気・輸送指令・電気指令)運転取扱勉強会(美馬牛駅)

センターの役割は、災害や事故などによって輸送障害

が生じた際、センター員が現場に急行し、各地区の駅長や駅社員をサポートすること。

また必要によりセンター員自身も運転取扱業務を行います。これにより、ダウンタイムの解消、安全・安定輸送の確保とともに異常時対応力も強化されました。

さらに駅社員の技術継承のための勉強会も定期的を実施しており、人材育成にも努めています。とはいえ、実務のない業務の技術を教

え伝えるのは容易なことではありません。そのため、車両を使用した実設訓練やシミュレーターによる信号取扱訓練を設けています。



運行や列車の異常を知らされるシミュレーターを使つての訓練

昨年一年間に札幌地区のセンターの出動回数は十四回でそのほとんどが何らかの輸送障害が原因です。安全・安定輸送の一翼を担うセンターは、そうしたトラブルに対応するだけでなく、エリア内の労働災害防止教育にも力を入れています。特に冬期間の触車事故を撲滅するための教育訓練もそのひとつです。

今後はセンターの業務を担う人材を育成し、盤石な体制づくりに取り組んでいきます。